

例題 1

日本図書館協会が作成した「図書館における障害を理由とする差別の解消の推進に関するガイドライン」では、障害者に対する不当な差別的取扱いに当たる例などが具体的に示されている。次の記述A～Dはいずれもガイドライン中で示されている具体例であるが、このうち、障害者に対する不当な差別的取扱いに当たる例のみを全て選んでいるのはどれか。

- A. 障害者に対して、来館に際して通訳者や家族の同行を求める。
- B. 手話通訳者の手配ができないことを理由に、障害者が図書館における催しに参加するのを断る。
- C. 個々の配慮にそれなりの時間と人数を要する利用者に対し、事前に来館日時の連絡を求める。
- D. 手話通訳者などの派遣手続のため、講演会の申込み締切りを一般よりも前にする。

- 1. A
- 2. A, B
- 3. A, C
- 4. B, C, D
- 5. C, D

正答番号 2

例題 2

次の記述A～Cは、児童文学及び図書館の児童サービスに関する資料のタイトルとその解題である。記述と著者名をいずれも正しく組み合わせているのはどれか。

- A. 『子どもと本の世界に生きて』（児童図書館員である著者が、自らの半生と、児童図書館員の仕事について分かりやすく語った書）
- B. 『本・子ども・大人』（子どもにどのような本を与えればよいかについて、大人の目線で教訓的な本ばかりを与えないようにという意図で書かれた書）
- C. 『子どもの図書館』（自宅に開いた「かつら文庫」での実践報告をまとめ、海外の児童図書館サービスにも触れた書）

A	B	C
1. 石井桃子	松岡享子	小河内芳子
2. 小河内芳子	石井桃子	松岡享子
3. 松岡享子	ポール・アザール	小河内芳子
4. アイリーン・コルウェル	ポール・アザール	石井桃子
5. ポール・アザール	アイリーン・コルウェル	石井桃子

正答番号 4